

7. すいか

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	アミスター20フロアブル	散布	収穫前日まで	4回以内	
M3	アントラコール顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	4回以内	
M4+M1*	オキシラン水和剤	散布	収穫14日前まで	5回以内	
24+M1	(カスガマイシン・銅) カスミンボルドー 銅シン水和剤	散布	収穫前日まで	5回以内	
M1*	(有機銅) キノンドー水和剤40	散布	収穫10日前まで	5回以内	
	ドキリンフロアブル	散布	収穫前日まで	5回以内	
M3	(マンゼブ) ジマンダイセン水和剤	散布	収穫7日前まで	7回以内	
	ペンコゼブ水和剤	散布	収穫7日前まで	7回以内	
10+2	スミブレンド水和剤	散布	収穫21日前まで	5回以内	
2	スミレックス水和剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫3日前まで	5回以内	
1	トップジンM水和剤	散布	収穫前日まで	5回以内	
1	ベンレート水和剤	散布	収穫前日まで	5回以内	
M10	モレスタン水和剤	散布	収穫3日前まで	5回以内	
M1+4	リドミル銅水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11+7	シグナムWDG	散布	収穫前日まで	3回以内	
11	ストロビーフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
19	デュアルサイド水和剤	散布	収穫3日前まで	5回以内	
50	プロパティフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
M7	バルコート水和剤	散布	収穫前日まで	4回以内	
3	マネージ水和剤	散布	収穫前日まで	4回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アクタラ粒剤5	植穴処理	定植時	1回	
4	アドマイヤー水和剤	散布	収穫3日前まで (但し露地栽培については着果後の使用に限る)	3回以内	
4	アドマイヤー1粒剤	植穴土壌混和	定植時	1回	
11	エスマルクDF	散布	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	野菜類
1	エルサン乳剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
20	カネマイトフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
6	コロマイト乳剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
21	サンマイトフロアブル	散布	収穫3日前まで	2回以内	
1	スプラサイド水和剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	
33	ダニオーテフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	
21	ダニトロンフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
4	ダントツ水溶剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
4	ダントツ粒剤	植穴処理土壌混和	定植時	1回	
10	バロックフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	
21	ピラニカEW	散布	収穫3日前まで	1回	
4	ベストガード水溶剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	ベストガード粒剤	植穴処理土壌混和	定植時	1回	
20	マイトコーネフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
3	マブリック水和剤 20	散布	収穫3日前まで	2回以内	
1	マラバッサ乳剤	散布	収穫前日まで	3回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農業ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
 注3) 農業登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
つる割病 (F)	は種前	1. 土壌消毒及び床土消毒する。薬剤で消毒する場合は、土壌消毒の項を参照し、登録薬剤を用いる。	1. 激発地では、5年以上休栽する。 2. 畑の茎葉、敷わらなどは焼却する。 3. クロールピクリン、ドロクロールによる土壌消毒は、マルチ畦内処理による。
	定植前	1. 抵抗性台木に接木する。	
	生育期間	1. 発病株は、早期に抜き取る。	
黒点根腐病 (F)	は種前	1. 土壌消毒する。土壌消毒の項を参照し、登録薬剤を用いる。	1. ヌウガオ台、トウガン台ともに発病する。 2. 肥大期になると病勢が急に進む。 3. 枯死株の根部に黒色小粒点（子のう殻）を確認することで本病と診断できる。
	生育期間	1. 株はていねいに抜き取り、ほ場外に埋却する。	
疫病 (F)	5月下旬 ～7月下旬	1. 畦には、わらを敷くかポリフィルムでマルチし、泥の跳ね上がりを防ぐ。 2. 低湿地では、排水を図る。 3. ジマンダイセン水和剤 600 倍液を散布する。	
菌核病 (F)	5月中旬 ～7月中旬	1. ベンレート水和剤、又はスミレックス水和剤の 2,000 倍液を散布する。	1. 同一薬剤を連用しない。
炭疽病 (F)	5月中旬 ～7月下旬	1. 発病葉、発病果実は除去する。 2. アントラコール顆粒水和剤、オキシラン水和剤の 500 倍液、マンゼブ（ジマンダイセン、ペンコゼブ）水和剤の 600 倍液、ダコニール 1000 の 700 倍液、キノンドー水和剤 40 の 800 倍液、トップジンM水和剤 1,500 倍液のいずれかを散布する。	
つる枯病 (F)	5月中旬 ～7月下旬	1. アントラコール顆粒水和剤 500 倍液、ダコニール 1000 の 700 倍液、スミレックス水和剤 1,000 倍液、スミブレンド水和剤 1,500 倍液、アミスター 20フロアブル 2,000 倍液のいずれかを散布する。	1. スミレックス、スミブレンドには、同一成分が含まれているので、ローテーション散布を行う際注意する。また、いずれもアブラナ科野菜にかからないようにする（薬害）。 2. Q o I 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
うどんこ病 (F)	7月下旬 ～8月下旬	1. モレスタン水和剤3,000倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ベルクート水和剤1,000倍液、マネージ水和剤1,000～2,000倍液、シグナムWDG、デュアルサイド水和剤の2,000倍液、ストロビーフロアブル2,000～3,000倍液、プロパティフロアブル4,000倍液のいずれかを散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一薬剤を連用しない。 2. Q o I 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
果実汚斑 細菌病 (B)	生育期間	1. 発病が確認された株は直ちに抜き取り、ほ場外に埋却する。 2. キノンドー水和剤40、ドキリンフロアブル、リドミル銅水和剤の800倍液、カスガマイシン・銅水和剤(カスミンボルドー、銅水和剤)1,000倍液のいずれかを散布する。	1. リドミル銅は、高温時の散布、連続散布をしない(薬害)。 2. 育苗時、接木ナイフ等の器具類は、接木する個体毎に0.5%次亜塩素酸ナトリウム溶液またはケミクロンGの1,000倍液に浸漬して消毒する。 3. 発生が確認されたほ場では、ウリ科作物を作付けしない。 4. 本病は「植物防疫法」の重要病害虫に指定されており、発生が疑われた場合は、農業農村支援センター等関係機関に報告する。
果実軟腐病 (B)	生育期間	1. 花落ち部等の傷口から病原菌が感染するため、病原菌液に触れないように注意する。	1. 傷がつかないように、果実はいねいに扱う。
緑斑モザイク病 (CGMMV) (V)	生育期間	1. 必ず、健全種子を用いる。 2. 発病株は、直ちに抜き取る。 3. 残果、残渣の整理を行う。	1. 病原ウイルスは、種子伝染、接触伝染、土壌伝染する。 2. 宿主範囲はウリ科植物に限られる。 3. 被害残渣が、ほ場に残っていると発生が増加する。 4. 接触、刃物により容易に汁液伝染するので、摘心、摘果作業時は注意する。 5. 発病果は奇形になり、すいかでは肉質劣変(コンニャク果)の原因になる。
アブラムシ類 (モザイク病)	定植時	1. シルバーストライプフィルムでマルチする。 2. アドマイヤー1粒剤は株当たり5g(但し3kg/10aまで)を植穴土壌混和、アクタラ粒剤5は株当たり2gを植穴処理、ベストガード粒剤は株当たり2g、ダントツ粒剤は株当たり1gを植穴処理土壌混和する。	1. ウイルス感染防止のため発生初期から防除する。 2. 薬液が、葉裏に十分かかるように散布する。 3. マブリックは蚕毒及び魚毒に、アドマイヤー、ダントツは蚕毒に、エルサンは魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
	生育期間	1. エルサン乳剤、ベストガード水溶剤の1,000倍液、アドマイヤー水和剤2,000倍液、ダントツ水溶剤、マブリック水和剤20の4,000倍液のいずれかを散布する。	4. ダントツは、ミツバチ、マルハナバチへの影響に注意する。 5. アドマイヤーは露地栽培については着果後の使用に限る。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ハダニ類	生育期間	1. コロマイト乳剤、サンマイトフロアブル、マイトコーネフロアブルの1,000倍液、カネマイトフロアブル1,500倍液、ダニオーテフロアブル、ダニトロンフロアブル、バロックフロアブル、ピラニカEWの2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 同一剤を多用しない。 2. 薬剤が葉裏に十分かかるように散布する。 3. コロマイトは蚕毒及び魚毒に、バロックは蚕毒に、サンマイト、ダニトロン、ピラニカは魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 4. サンマイト、ダニトロンは蚕毒に注意する。 5. バロックは魚毒に注意する。 6. ダニオーテは銅を含む製剤との混用及び近接散布で効果が低減する恐れがあるため次の事項に注意する。①銅剤との混用は避ける。②本剤を散布した後に銅剤を使用する場合は10日以上散布期間を開ける。③銅剤を散布した後は本剤の使用を避ける。
オオタバコガ	生育期間	1. エスマルクDFの1,000倍液を散布する。	1. 越冬世代及び第一世代成虫が産下する卵からの孵化幼虫を防除対象とするため、防除時期は6月上旬～7月下旬である。 2. エスマルクは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
ミナミキイロ アザミウマ	生育期間	1. スプラサイド水和剤1,000倍液、マラバッサ乳剤1,500倍液のいずれかを散布する。	1. 薬剤抵抗性発達を回避するため、系統の異なる薬剤をローテーション使用する。 2. マラバッサは魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
ネコブ センチュウ	定植前	1. 土壌線虫の項を参照する。	